

酪農とちぎ



那須高原CS稼動

先に稼動した那須高原支所に続き「那須高原CS」が完成し、六月一日より稼動致しました。旧那須高原CSと西那須野CSを統合し、那須町から那須塩原市に移転しました。また、支所と隣接することにより、利便性と施設の合理化を図ることができず。

皆様には梅雨明けとともに、収穫作業、温度の上昇による衛生的乳質の保全・冷却設備の点検整備に気遣う毎日と察します。今年も酷暑が予想され牛達にも辛い日々が続きます。暑熱対策を万全にする事が、増産・増収に繋がりますので是非実行下さい。



酪農とちぎ第四回通常総代会 施設合理化促進・栃木県南支所の新設基本計画の策定

第四回通常総代会を六月二十八日、高根沢町民ホールに総代百四十五名が出席し開催致しました。

当日は定刻午前十一時に定足数を満たし、菊池副組合長が開会を宣し、前田組合長より飲用牛乳の消費拡大、脱脂粉乳の過剰在庫についての対応を説明、那須高原支所の新設、那須高原CSが完成し六月一日よりの本稼動を報告、栃木県南支所の新設設計を策定し地域の拠点整備により、合理化を進める事などを含め、四年度の経過・五年度の業務方針について詳細

な報告が行なわれました。

続いて、橋本俊一県農務部長(代理)から祝辞を頂き、議長団には大島浩氏(芳賀町)今耕一氏(那須町)が選任され、提出第一号から第八号議案まで慎重に審議された結果、全議案とも原案通り可決決定を得ました。

第一号議案では、赤堀参事より、四年度の各事業の内容について詳細な説明が行なわれました。また、第二号、第四号議案については、農協法及び民法等の改正に伴う、定款・諸規定変更について説明後承認を得ました。

第五号議案(十七年度事業計画)については、需要期の生乳増産に理解と協力をお願いすると共に、購買品供給原価の低減・指導事業の充実・栃木ファームフェスタの協力支援を行なう事を説明しました。診療事業・牧場事業については、効果的な事業展開を進める事などを説明し、第六、七号議案に

ついても必要性について説明し、同様の理解を得られました。

第八号議案については、新たに五名の理事が選出されました。その後、相馬副組合長が開会を宣し終了致しました。

当日の出席状況

定数 百九十名 本人出席百四十五名、書面議決二十四名

主な質疑、意見要望等

特殊資産の内容について
定款変更(組合員の脱退)について
常勤役員の報酬について
集乳路線合理化について
全員総会の開催について
集乳車への乳量計設置について
施設合理化について
預託牛の耳標管理について
酪農ヘルパー利用時の定期検査の扱いについて
診療事業の内容と開業獣医との連携について
飼料袋の回収について
夏期の乳質管理について
ヘルパー職員の待遇及び報酬について
また席上、乳質共励会の表彰が行なわれ、組合表彰・県表彰・連続賞の各受賞者に対し、日頃の乳質向上に対する努力を賞しました。



組合長の挨拶



ご意見・ご要望



議長団の大島浩氏(左) 今耕一氏(右)



乳質共励会表彰



平成16年度乳質共励会表彰名簿

表彰区分	支所名	組合員名	県表彰	連続賞受賞者	備考	
優秀賞(9名)	那須高原支所	小針 秀夫	知事賞	昨年、最優秀賞	3年連続	
		前田 宏幸	知事賞	昨年、優秀賞	2年連続	
		横山 武夫	農務部長賞	昨年、優秀賞	2年連続	
		小林 陽子	農務部長賞	昨年、優秀賞	3年連続	
		穴戸 英樹		昨年、優秀賞	2年連続	
	大田原 浩		昨年、優良賞			
	宇都宮支所	桧山 嘉男				
	栃木県南支所	小倉 通保			昨年、優良賞	
		鈴木 弘				
優良賞(23名)	那須高原支所	伊藤 謙三		昨年、優秀賞		
		月井 明典				
		佐藤 栄昭				
		仙波 信男		昨年、優秀賞		
		松本 伸一				
		森 義一				
		大沼 哲夫				
		田代 憲次				
		室井 秀行				
		後藤 信夫				
	白須 孝志			昨年、優良賞		
	小針 勇					
	加藤 拓央		昨年、優秀賞			
	平野 恒夫		昨年、優秀賞			
	松井 実		昨年、優良賞			
	宇都宮支所	桧山 正人				
		栃木県農業大学校				
		井沢 孝之				
栃木県南支所	藤沼 義夫					
	三柴 秀夫					
	加藤 俊雄					
	大瀧 信夫					
	柳 憲一					

同点の場合、順不同



役員選任投票



開票



新役員挨拶

支所別説明会

六月中旬、支所ごとに地域説明会を四会場で開催致しました。

総会は総代制となっておりますので、支所別説明会を実施し、全組合員に十六年度事業実績及び十七年度事業計画についてご報告し、皆様からご要望、ご意見を頂き、今後の事業展開の参考としております。主な質疑、ご意見を次にまとめました。

主な質疑ご意見等

那須高原支所

生乳生産量について
組合資金について
総代会制について

宇都宮支所

関東生乳販連の機能について
業務報告書の様式について
人件費について
集乳コースについて
奨励金等について
親子加入について
事業利益について
乳質奨励金等について
固定資産について
組合員加入・脱退について
組合員情報システムについて

栃木県南支所

一元集荷多元販売について
市乳事業について
診療事業について
総代会制について
組合員加入について



酪農とちぎ

新那須高原

クーラー・ステーション稼働

五月二十七日、那須高原・西那須野CSを集約し、施設の合理化を図る為に稼働が待たれていた「新那須高原CS」が先の那須高原支所に続き完成し、関係者約百五十名が出席し盛會に竣工式を行いました。

那須高原CSは、新山村振興等特別対策事業」の補助を受けて建設され、那須町・那須塩原市・大



田原市・黒羽町・湯津上村の五市町村の約四〇〇戸から生乳を受入れます。新那須高原CSの貯乳量は二四〇t、一日の生乳処理能力は三八五tがあり、本州最大級の処理能力（近日の日別最大集乳量は、CS処理能力の約八九%を記録）を備えております。また、集送乳車の受送乳・洗浄はドライブスルー方式を採用し、生乳の冷却



・搬送・パイプラインの洗浄を自動制御で集中管理する最新設備を導入し合理化を図りました。

竣工式には、農水省、栃木県、那須塩原市、国・県会、関係団体、乳業メーカー、組合員にご臨席頂きました。神事は黒磯神社月江宮司により執り行われ、参列者が見守る中、各関係者により玉串の奉典などが行なわれました。その後、テープカット・記念樹の植樹が行なわれ、蓮実進衆議院議員の挨拶の後、CS内の視察が行なわれました。会場を移動し竣工祝賀会が開かれ、前田組合長は「県北の地域施設合理化が、国や県などのご



指導ご支援のもと、近代的なCSを完成することが出来ました。最新機能を備えた施設は、各メーカーからも評価を受けており、消費者のみならずにも安心して飲んでもらえる生乳を届けることが出来ます。また、新しい那須高原CSは、先に完成した支所と共に、集乳路線の合理化、管理費の削減が実現し、より多くのメリットを還元し、組合員の皆様に評価されるよう努力したい。」と挨拶しました。続いて農水省、栃木県、那須塩原市、国・県会、関係酪農団体から「近代的な施設の完成を祝い、さらなる合理化と安全性の両立を目指し、県北地域の発展に貢献してほしい。」等の来賓祝辞を頂きました。

那須高原CS概要

敷地	一一、四五二㎡
生乳処理棟	一、五三九㎡
処理能力	三八五t(日)
貯乳能力	二四〇t(〃)
受乳能力	八〇t(一時間)
送乳能力	九〇t(〃)
冷却能力	八〇t(〃)
制御方法	コンピュータで集
中管理(受入・送乳・冷却・洗浄)	



東西南北

那須高原支所

女性会那須支部勉強会

六月二十二日 那須高原支所二階会議室にて、女性会那須支部支部長、清水恵美子さん（主催による勉強会が、女性会会員五十名が参加し開催されました。

「乳房炎の予防」をテーマに、那須高原支所指導課の深沢博之職員により行なわれ、ユーモアを交えながらの講演は分かり易く、質疑応答も活発におこなわれ、乳房炎予防法の理解と会員相互の意識高揚を図る事ができました。

また、昼食後には、新設された那須高原CSの最新設備を見学しました。参加者は組合が行なっている、安全・安心な良質乳生産への理解を深め、有意義な勉強会となりました。

宇都宮支所

女性会宇河今市支部 視察研修会

去る六月六日、女性会宇河今市支部（支部長郷間美知子さん）は新築の香り漂う那須高原CSへ会長以下総勢十四名で視察研修を実施しました。

川上CS所長の案内で検査室、受乳コントロール室と案内され、質問しながら見て回りました。

特に注目のあったのは近代的に整備されたドライブスルーの受乳場でした。受乳場の混雑もなく、手際よく操作して次の集乳に出て行くローリー車のスムーズな流れに興味深く見学できました。

次いで組合員さん直営販売店のジョセフイーヌにて、自慢のアイスの美味しさやお土産品をたつぷりと賞味されていました。締めくくりに、温泉付き昼食で



日頃の仕事の疲れを癒し楽しい一時を過ごしより親睦を深めた良い研修会となりました。

栃木県南支所

『キャリロポ稼働』

今回は、酪農とちぎで初めて搾乳ユニット自動搬送装置（キャリロポ）を導入し、ゆとりをもって生産性を高めている真岡市の高橋平治さんの牧場を紹介します。

この牧場は、今年の四月末に公社事業により、五十二頭対尻式の牛舎を新築しました。以前から、牛群検定成績を有効に活用し、さらに連続水槽や牛床の改善などのカウコンフォートに取り組み、牛群平均一万kgに達していました。高泌乳牛群であるため、個体管理を重視し、つなぎ牛舎を選択しました。そして、四基（一基で搾乳

ユニット二台）のキャリロポを導入しました。

キャリロポは、まず自動で搾乳ユニットを牛の隣まで搬送します。次に自動でミルクタップを接続し、左右の牛の搾乳が同時に開始されます（乳頭清拭とユニット装着およびディッピングは手動）。搾乳終了後は自動離脱し、ミルクタップも自動で外れて、次の搾乳牛のところへ自動で搬送されます。あとはこの繰り返しとなります。この搾乳ユニットを使用すれば一人一時間で五十頭の搾乳が可能となっています。

高橋さんは、長年の『親子三人の夢と希望』を運ぶキャリロポが完成して、搾乳時間が半分になり、生活にゆとりができ、笑顔で搾乳作業をしていました。



部課だより

生乳販売課

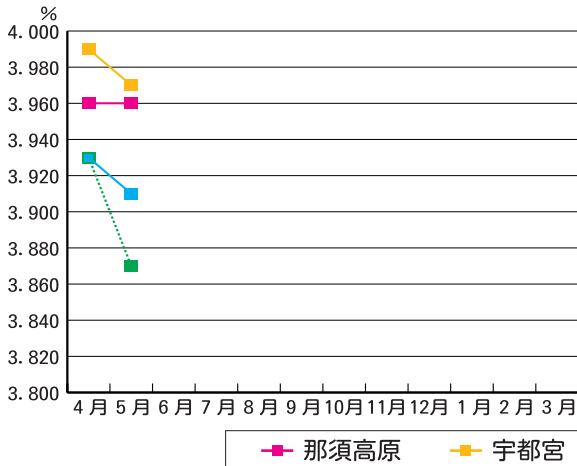
生乳生産量の回復傾向はまだ見えず。

生乳の生産は、今年度に入り前年実績を下回る生産で推移しておりますが、五月についても九六・八%と前年を下回りました。

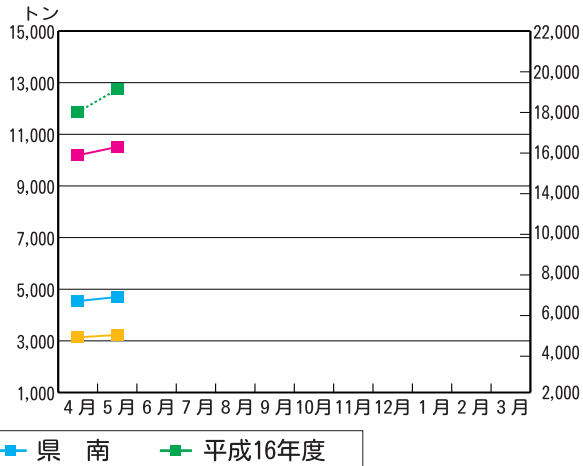
支所別に見ると、五月は那須高原支所においては九五・三%、宇都宮支所においては九七・七%、県南支所においても九九・六%と三支所ともに前年を下回る実績となりました。その中でも那須高原支所管内における減少幅が大きく今後の生産動向が懸念されるところです。

全国の生乳生産動向については、五月は北海道が九八%、全国でも九七・九%と全体的に下回る傾向となり、累計では九八・六%となりました。関東においては九七・五%と相変わらず減少傾向が続い

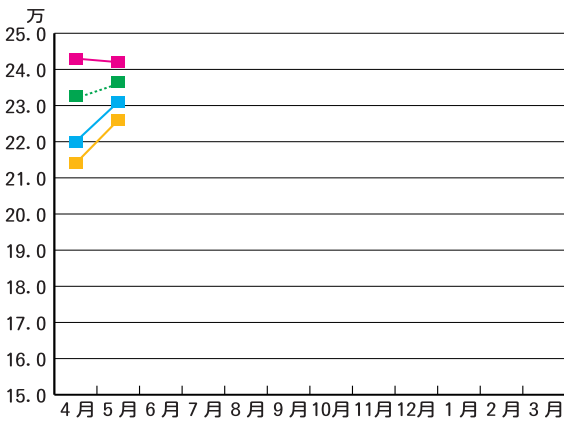
◆ 脂肪率の推移



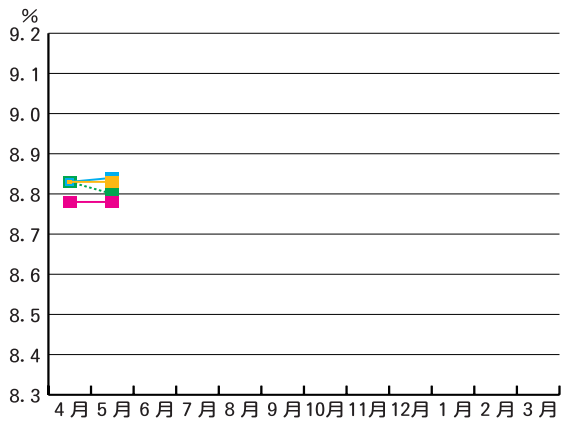
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



ております。

生乳需要の動向においては、飲

用牛乳向けは相変わらず低迷(三%減)し、醗酵乳向けについては

三・九%増と回復傾向を示しておりますが、飲用需要の回復傾向には到っておらず、今後の需要拡大対策に期待されるところです。

特定乳製品向けについては、生乳生産量が前年を下回ったこともあり五・二%減と前年を下回っております。

組合における乳質成績は、脂肪率が前年を上回り三・九五%、無脂固形分率は前月及び前年と同じ八・八%となりました。細胞数については前年値を〇・六万下回る(二三・六万)好成绩となりました。

五月迄の乳量及び乳質成績は上記のとおりです。

酪農部

ホルスタインジュニアショウ開催

全共開催の一環として、栃木県ホルスタイン改良同志会主催のホルスタインジュニアショウが六月二十四日(金)、矢板市家畜市場に



理事会だより

六月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 六月分生産者支払乳価について
- (三) 支所別地域説明会結果報告について

ハーフ・タイム



今年前半の梅雨は、晴天少雨の典型的な陽性型で折り返した。関東は、九州一部より早く梅雨入りしたが、少雨による貯水源地の枯渇、田植えの断念、取水制限を発令した地域もある。「雨乞い祈願」も報じられたが、水不足は早くも深刻化している。

途端、七月に入ると豪雨による被害続出と思いがままにならぬ自然現象だが、十八日梅雨明けし、いよいよ夏本番を迎える。

今や、プロ野球を抜く人気ぶりのサッカー。W杯三連続大会出場を決め、サポーターの興奮は冷め止らぬ。ともあれ、いばらの道を克服しての快挙をたたえたい。物事を金銭に換算するのが得意

協議事項

- (一) 五月度事業実績について
- (二) 県酪連業務承継について
- (三) 全共負担金について

お知らせ

休業のお知らせ

八月一日(月)は、組合創立記念日につき休業となりますのでお知らせいたします。尚、検査業務

と言われるわが国のようだが、早くも経済効果二千五百億円が試算され、テレビ業界・旅行者の追い風商戦が始まった。

本県にもJ2リーグ入りを目指し健闘しているクラブチームがある。サラリーマン主体の「栃木SC」、アマチュア大会最高峰のJFL(サッカー日本フットボールリーグ)において、首位攻防戦を展開し、Jリーグ入りも夢ではないしかし、Jリーグ参入には成績だけでなく、高いハードルがある。クラブの法人化・ホームスタジアムの設置・S級有資格者の指導者招聘・三億円の運営費等々を完備せねばならない。でも、関東で唯一プロチームのない本県だけに、支援するファンは大勢いる。

サッカーに続き人気上昇中なのが女子バレー。昨年の選手の顔ぶ

は通常通り行います。

『うぐいすふれあいデー(第十三回酪農試験場公開デー)』の開催

主催 栃木県酪農試験場
日時 平成十七年八月六日(土) 午前十時～午後三時
場所 那須塩原市千本松二九八
テーマ 「育もつ！豊かな大地と未来の酪農」

れも一新し、新生・全日本チームが世界強豪を相手に善戦し続け好調に始動した。若さ溢れる度胸とプレーは、一日の疲れを癒してくれる。そして、待望の全国高校野球県大会が開幕した。

最近、耳にする言葉のひとつに「団塊世代」がある。昭和二十二年から二十四年のベビーブーム生まれ、現在五十六歳から五十八歳の世代を指すが、わが国総人口の五%、約六八〇万人いる。

高度経済成長の原動力として活躍した企業戦士達も、あと二年後から定年退職を迎えることとなるが、熟練労働力不足と高齢化を一層加速させ、大きな社会問題になると提言している。

戦後六十年、わが国の産業構造が大きく変革しようとしている。

(Y)

主な催し物 試験研究成果の展示とちぎファームフェスタ2005の紹介、トウモロコシのサーブス、堆肥・風船・牛乳・乳製品の無料配布
獣医さん体験、乳しぼり体験、ふれあいコーナー、農畜産物の販売
お問合せ
TEL 0287・36・0230
FAX 0287・36・0516

栃木県農業大学校

平成十八年度学生募集

栃木県農業大学校では、高度な専門的知識や技術の実践教育をとおして、本県農業の次代を担う資質の高い青年を養成します。募集人員 本科(高卒後二年課程) 総合農学科各四十名(作物・畜産・農産科学)・園芸学科各六十名(野菜・花き・果樹)。研究科(短大、農大卒業後二年課程)各二十名(作物・園芸・畜産・食品科学)。

出願期間 推薦入学試験 平成十七年九月二十六日～十月七日
一般入学試験・前期 平成十七年十二月五日(十六日) 一般入学試験・後期 平成十八年二月六日(十日) 研究科・一般入学試験 平成十七年十二月五日(十六日) 実施期日 推薦入学試験 平成十七年十一月四日 一般入学試験・前期 平成十八年一月十六日 一般入学試験・後期 平成十八年三月二日 研究科・一般入学試験 平成十八年一月十六日
問い合わせ先
栃木県農業大学校 事務部教務課
〒322-1132 33
宇都宮市上籠谷町1145-1
TEL 0281-667107 11
資料請求は、二四〇円切手を同封の上、御請求ください。